

《履修上の留意事項》1. 講義内容の順序や担当者に変更のある場合には事前に通知する。

2. 日ごろから予習・復習を欠かさないこと。
3. 疑問点があれば、遠慮なく質問すること（メールも歓迎）。
4. 机の上には講義と関係のないものは一切おかず、授業に集中すること。

《担当者名》 歯学部教授 / 高橋 伸彦 [ntkhs@hoku-iryu-u.ac.jp]

予防医療科学センター准教授 / 大村 一将 [kohmura@hoku-iryu-u.ac.jp]

予防医療科学センター教授 / 森谷 満 [moriya@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

解剖学や生理学、生化学といった基礎医学の知識を踏まえ、医学一般知識、特に内科疾患について学ぶ。本教科を学ぶことにより、医療人として必要な医学知識を得るとともに、歯科診療と関連の深い全身疾患について理解を深める。

【全体目的】

医療人として必要な医学全般の知識を得る。

歯科衛生士として、歯科治療の際に必要な全身疾患の病態を理解できる。

【学修目標】

全身疾患（主に内科疾患）について概要を理解し説明できる。

内科的知識を歯科医療に役立てることができる。

一般医学知識を駆使して、チーム医療において協調的に行動できる態度と能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論 内科学概論 症候学 呼吸器疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 主要身体所見 検査と診断 B 各論 呼吸器感染症 かぜ症候群 インフルエンザ 肺炎 肺結核 閉塞性肺疾患 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 C 歯科関連事項	内科学が扱う領域について知る。 代表的な症候と病態とを学ぶ。 呼吸器の形態と解剖を復習する。 咳嗽、喀痰、血痰・喀血、喘鳴、呼吸困難、嘔声の定義、発生機序などについて学ぶ。 換気異常、起坐呼吸、チアノーゼ、ばち状指の定義について理解する。 呼吸機能検査について理解する。 動脈血ガス分析について、その意義と解釈について復習、理解する。 かぜの原因となるウイルス、細菌と治療について。 インフルエンザの臨床的特徴と特異的治療について学ぶ。 肺炎の分類（市中肺炎と院内肺炎） 細菌性肺炎（肺炎球菌、インフルエンザ菌など）や異型肺炎（マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、レジオネラ肺炎）の診断と治療について学ぶ。 感染様式（空気感染と飛沫感染の違い）について復習し、理解する。 肺結核の発症誘因（糖尿病、免疫不全状態など）について学ぶ。 気管支喘息の概念、発生機序、治療ガイドラインについて学ぶ。 慢性閉塞性肺疾患の概念、肺気腫、慢性気管支炎について学ぶ。 気管支喘息患者、慢性閉塞性肺疾患患者の歯科治療における留意点について学ぶ。	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
2	循環器疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 検査 B 各論 心不全 先天性心疾患 心臓弁膜症 不整脈 虚血性心疾患 感染性心内膜炎 高血圧と低血圧 その他の心疾患 C 歯科関連事項	<p>心臓の解剖、機能について理解する。 循環器の障害で起こる主要な症状について、特に心不全の発生機序、病態生理について理解する。</p> <p>循環器に関わる検査、特に心電図、胸部X線写真、血液検査項目について理解する。</p> <p>心不全の種類と発生機序について知る。 先天性心疾患の種類について知る。 心臓弁膜症の種類について知る。 分類、発生の機序、危険な重症不整脈について理解する。 狹心症、心筋梗塞の病態生理について理解し、歯科治療との関連などを学ぶ。 病態、原因菌、症状、予防法を理解する。 血圧の構成要素、血圧異常の定義を学ぶ。 ショックについて学ぶ。 狹心症、心筋梗塞、心内膜炎、高血圧の項目で触れる。</p>	大村 一将
3	腎臓疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 腎機能検査 B 各論 糖尿病性腎症 原発性糸球体腎炎 全身性疾患の腎障害 ネフローゼ症候群 腎不全 C 歯科関連事項	<p>ネフロン（糸球体、尿細管）の構造と機能について復習する。レニン - アンジオテンシン - アルドステロン系、エリスロポエチン、ビタミンDの役割を理解する。</p> <p>尿量・排尿の異常、尿の症状と異常の定義と発症機序、臨床的意義について学ぶ。 浮腫の発生機序、尿毒症について復習する。 クレアチニン・クリアランス、糸球体濾過量、BUN、クレアチニンなどの腎機能検査の意義について学ぶ。</p> <p>溶連菌感染後急性糸球体腎炎、急速進行性腎炎症候群、慢性糸球体腎炎（IgA腎症を含む）の分類、症状について学ぶ。 糖尿病性腎症、腎硬化症、膠原病性腎症（ループス腎炎、強皮症腎など）、腎代替療法について学ぶ。 定義、診断基準、症状、原因疾患と治療について学ぶ。 分類（急性腎不全、慢性腎不全）、発生機序、病因、診断、加療について学ぶ。 歯科領域に関する薬剤による腎障害について学ぶ。</p>	大村 一将
4	消化器疾患 - 消化管 A 総論 解剖と生理 主要症状 B 各論 口腔内疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患 小腸・大腸疾患	<p>咽頭、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸の解剖及び生理機能（栄養素の消化、吸収）について復習する。 消化管に関して起こる主要な症状 - 特に歯科領域と関連の深い嚥下障害、吐血、悪寒、嘔吐 - について、その病態生理や鑑別診断について学ぶ。</p> <p>歯科診療時に遭遇する口内炎、舌炎、口腔粘膜の色素沈着などについて学ぶ。 胃食道逆流症、アカラシア、食道静脈瘤、食道癌などについて学ぶ。 胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌について学ぶ。 虫垂炎、大腸癌、腸閉塞などについて学ぶ。</p>	森谷 満

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	消化器疾患 - 肝疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 B 各論 ウィルス性肝炎 肝硬変 肝癌 薬剤性肝疾患 消化器疾患 - 胆嚢・膵臓疾患 A 総論 解剖と生理 胆嚢炎、胆石症 膵炎、膵癌	肝臓の解剖と生理機能、特に三大栄養素の代謝の働きについて復習する。 黄疸の発生機序（ビリルビン代謝）について学ぶ。 A型、B型、C型肝炎について、特徴的臨床経過（急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎）及びウイルスマーカーの解釈方法について学ぶ。 肝硬変において見られる種々の症状、特に歯科診療上注意すべき血液凝固異常について学ぶ。 肝癌の基本的事項について学ぶ。 歯科診療において使用される消炎鎮痛剤や抗生物質による肝障害などについて学ぶ。 胆嚢・膵臓の解剖及び生理機能について復習する。 胆嚢炎、胆石症、膵炎、膵癌などのポピュラーな疾患について学ぶ。	
5	代謝疾患 A 総論 B 各論 糖尿病 高尿酸血症・痛風 脂質異常症（高脂血症） C 歯科関連事項 内分泌疾患 A 総論 内分泌腺の解剖と機能 ホルモンの種類と作用 ホルモンの分泌調節機構 B 各論 下垂体疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 C 歯科関連事項	糖質代謝、脂質代謝について復習する。 糖尿病の定義、病態、病型分類について学ぶ。 糖尿病の症状、診断、合併症、治療について学ぶ。 高尿酸血症・痛風の症状と合併症について学ぶ。 脂質異常症の定義、病的意義について学ぶ。 糖尿病、動脈硬化症、虚血性心疾患との関連を学ぶ（メタボリックシンドローム）。 糖尿病と歯周病の関連について学ぶ。 糖尿病患者の歯科治療における留意点（易感染症など）について学ぶ。	高橋 伸彦
6	神経疾患 A 神経系の解剖・生理 B 各論	神経系の解剖・生理を復習する。	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	脳血管障害 脳出血 脳梗塞 脳血管障害で見られる症状 認知症 パーキンソン病 運動ニューロン疾患 筋萎縮性側索硬化症 てんかん 球麻痺と偽性球麻痺	脳血管障害の原因、病態について学ぶ。 クモ膜下出血や慢性硬膜下血腫について学ぶ。 アテローム血栓性脳梗塞と心原性脳塞栓症の原因、病態、治療法の特徴や違いについて説明できる。 脳血管障害で見られる症状について、分類（運動障害、脳神経障害、高次脳機能障害など）し説明できる。 認知症の症状について説明できる。 認知症の原因となる疾患（アルツハイマー型認知症、血管性認知症レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など）について説明できる。 パーキンソン病の成因、症状、治療について学ぶ。 運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症 ALS の病態について説明できる。 てんかんについて学ぶ。 球麻痺と偽性球麻痺の病態や原因、特徴について学ぶ。	
7	A　アレルギー・膠原病疾患 A　アレルギー反応の分類と疾患 B　歯科関連事項 膠原病、自己免疫疾患 A　総論 膠原病の定義 病態生理 主要症状 検査法 B　各論 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス Sjogren症候群 Behcet病 その他膠原病および類縁疾患 C　歯科関連事項	アレルギーの分類について学ぶ。 アレルギーの反応により発症する疾患の概要について学ぶ。 型アレルギーの症状について学ぶ。 ラテックスアレルギー、アスピリン喘息、金属アレルギーについて詳しく学ぶ。 膠原病、膠原病類縁疾患の定義について学ぶ。 膠原病・自己免疫疾患の病因について学ぶ。 膠原病について見られる皮膚、粘膜、関節、眼、筋肉、神経、循環器、呼吸器、腎症状について学ぶ。 血液検査、画像検査、組織生検検査の意義について学ぶ。 自己抗体（抗核抗体、リウマトイド因子、疾患標識自己抗体）、血清補体価などの特殊検査について学ぶ。 概念、病態生理、症状（関節症状、関節外症状、顎関節炎）、分類基準、治療について学ぶ。 概念、病態生理、症状（特に顔面、口腔症状、口腔潰瘍、重要臓器病変）、分類基準、治療について学ぶ。 概念、病態生理、症状（腺症状 - 口腔症状、腺外症状）、厚生省改定診断基準、治療について学ぶ。 概念、症状（特に口腔症状）、治療について学ぶ。 概念、症状（特に口腔症状）、治療について学ぶ。 顔面、顎・口腔に症状を表す膠原病について知識を整理し、これらの所見が診断に有用であることを認識する。 副腎皮質ステロイド薬を服用の膠原病患者の歯科治療における留意点（易感染性、ステロイド離脱症候群など）と対処法を学ぶ。	大村 一将
8	血液・造血器疾患総論 A　血球の種類と役割 B　造血の仕組み C　主要症状	血球成分の種類（赤血球、白血球、血小板）とそれぞれの生理機能について学ぶ。 主たる造血組織である骨髄の仕組みについて学ぶ。 歯科診療で遭遇する貧血、出血傾向を中心に、その	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	<p>赤血球異常による疾患</p> <p>A 貧血（各論）</p> <p>鉄欠乏貧血</p> <p>悪性貧血</p> <p>再生不良性貧血</p> <p>溶血性貧血</p> <p>B 赤血球增多症</p> <p>白血球及びリンパ網内系の疾患</p> <p>A 好中球減少症</p> <p>B 急性・慢性白血病</p> <p>C 悪性リンパ腫</p> <p>出血素因を主徴とする疾患</p> <p>1. 血小板異常</p> <p>a. 特発性血小板減少性紫斑病（ITP）</p> <p>2. 血液凝固異常</p> <p>a. 血友病</p> <p>b. Von Willebrand病</p>	<p>病態生理や鑑別診断について学ぶ。</p> <p>特に頻度の高い鉄欠乏性貧血の臨床的特徴及び歯科領域の症状として起こるPlummer-Vinson症候群について学ぶ。</p> <p>悪性貧血の症状、病態について学ぶ。</p> <p>ビタミンB₁₂の意義やHunter舌炎などの歯科領域との関係を理解する。</p> <p>汎血球減少に伴う口腔内感染症・出血を高頻度に起こす、歯科領域において重要な疾患として理解を深める。</p> <p>多くの疾患や薬剤投与に伴い、貧血と黄疸を特徴とする溶血性貧血についてその病態生理を学ぶ。</p> <p>真性及び続発性赤血球增多症を簡単に学ぶ。</p> <p>抗生素質や消炎鎮痛剤などの多くの薬剤によって起こり得ること、重得な感染症（敗血症など）を発症することを十分理解する。</p> <p>白血病の一般的な症状及び化学療法や造血幹細胞移植に伴う歯科領域の問題点を中心に学ぶ。</p> <p>また歯肉腫を来しやすい単球性白血病について学ぶ。</p> <p>悪性リンパ腫の基礎的知識を学び、歯科領域（頸部リンパ節、口蓋扁桃・咽頭を含むワルダイエル領域、唾液腺など）にも発生することを理解する。</p> <p>特発性血小板減少性紫斑病（自己免疫性血小板減少症）の病態、症状、検査所見及び治療法の特徴を学習する。</p> <p>血友病A、Bについて病態、症状、検査所見及び治療法の特徴を学習する。</p> <p>Von Willebrand病の病態、症状、検査所見及び治療法の特徴を学習する。</p>	
9	<p>感染症</p> <p>A. 総論</p> <p>B. 各論</p> <p>1. 細菌感染症</p> <p>ブドウ球菌感染症</p> <p>レンサ球菌感染症</p> <p>ジフテリア菌感染症</p> <p>破傷風菌感染症</p> <p>2. ウィルス感染症</p> <p>ヘルペスウィルス感染症</p> <p>麻疹ウィルス感染症</p> <p>風疹ウィルス感染症</p> <p>ムンプスウィルス感染症</p> <p>ヒト免疫不全ウィルス感染症</p>	<p>感染症の概念、検査法について学ぶ。</p> <p>黄色ブドウ球菌による食中毒やMRSAについて学ぶ。</p> <p>レンサ球菌による猩紅熱や感染後のリウマチ熱や糸球体腎炎について学ぶ。</p> <p>レンサ球菌や黄色ブドウ球菌による感染性心内膜炎について学ぶ。</p> <p>ジフテリアと偽膜形成について学ぶ。</p> <p>破傷風と開口障害について学ぶ。</p> <p>水痘・帯状疱疹の原因や病態について学ぶ。</p> <p>単純疱疹について学ぶ。</p> <p>伝染性単核球症について学ぶ。</p> <p>麻疹、風疹、流行性耳下腺炎について各疾患の特徴を学ぶ。</p> <p>HIV感染症の病態や後天性免疫不全症候群について</p>	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	手足口病 ヘルパンギーナ 咽頭結膜熱 3. 感染症と顔面・口腔症状	学ぶ。 夏季に流行する小児急性ウイルス感染症（手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱）の鑑別について学ぶ。 感染症と顔面・口腔症状について理解する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100%）

【教科書】

コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論（中外医学社）

【参考書】

「わかりやすい内科学 第5版」 井村裕夫 編集 文光堂 2023年
「内科学 第12版」 矢崎 義雄・小室 一成 総編集 朝倉書店 2022年

【学修の準備】

- 1) 授業の前に、あらかじめ教科書の該当する部分を学習しておく（60分）。
- 2) 前回の授業で学んだ項目を、レジメや教科書を元に復習する（60分）。

【到達目標】

医学一般の知識および口腔疾患と全身疾患の関連について習得し、患者さんの全身状態を念頭において診療ができる歯科衛生士を目指す。

全身の一部分としての口腔病変を理解する。

院内感染に関する感染症を理解する。

生活習慣病を深く学び、歯周病との関連を理解する。

【ディプロマ・ポリシーとの当該授業の科目の関連】

1. 人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学知識を修得している。
2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につける。
3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できる自己の専門領域を発展させる能力を身につける。
4. チーム医療（保健と医療と福祉）において協調し建設的に行動できる態度と能力を身につける。

【実務経験】

高橋 伸彦（医師）、大村 一将（医師）、森谷 満（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

内科医としての実務経験を活かし、実臨床における疾患の診かたや注意点を中心に、歯科診療に携わる際に役立つ講義を行う。